

「学びの教室」

2学期が始まります

長い夏休み、特に前半は気温が高い日が続きました。暑い中、駒本小まで面談にお越しくさざりありがとうございました。2学期も引き続き、特別支援教室の教育活動にご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、休業中に、私たち特別支援教室の教員は、来年度入学予定のお子さんたちの就学前施設に行動観察に行くほか、日々の指導の質を高め、子どもたちのよりよい理解につなげるために全国規模の研究協議会や全都の関係教員が集まる研究会に参加し、学びを深めてきました。

その中で、ある研究協議会では、最近話題になった「子育てアプリTOIRO」*の開発に携わった信州大学医学部子どものこころの発達医学教室の本田秀夫先生の講演を伺う機会に恵まれました。臨床の現場から発信される先生のお話は全てにわたって興味深いものでしたが、特に印象に残ったフレーズが「自分がマジョリティと感じられる活動拠点の確保を!」というものでした。換言すると“発達特性にフィットした活動拠点があると、不適切なインクルージョンの場に遭遇しても、ダメージが最小限で済む”ということだそうです。

特別支援教室を利用する子どもたちのことを振り返ると、下校後の習い事やいわゆる放デイ(放課後等デイサービス)には、確かに、そういったセカンドプレイスやサードプレイスの役割がありそうです。

他方、拠点校の多目的ホールでも、中休みに利用児童が楽しそうに野球(ごっこ!?)をしている場面をよく見かけます。他校通級でやってくるお子さんも同学年の仲間と「すきま時間」にサッカー盤ゲームに興じていることがあります。よく考えると、どうやら特別支援教室も「発達特性にフィットした活動拠点」としての役割が果たせそうです。本田先生が提案するところの“インクルーシブかつアイデンティティの保障されたコミュニティづくり”に、微力ではありますが私たちも寄与できたらいいなあとを新たにしました。

また、別のセッションでは、過去に通級を利用した経験がある学生や社会人にアンケートをとった結果の発表がありました。報告者からは、「アンケートの結果から、発達特性があっても社会でうまく適応して生きていくために必要なことの一つとして、『相談する力』が大切ではないか。」「『相談する力』を形成し高めていくためには、相談して楽になった(良かった)と感じる経験を積む必要があるのではないか。」という示唆がありました。特別支援教室の指導は、1週間に数時間の出会いはありますが、「子どもたちがそういった経験ができるように、まずは、やれることをやってみよう!」と、これまた、思いを新たにしました。

*<https://toiroapp.com/>



<保護者の皆様へ:タイムシェア終了に関して>

本年2月下旬から約半年間続いてきた駒本育成室との多目的ホールタイムシェアは、育成室が新校舎に引っ越したことで終了となりました。巡回校の保護者の方々を含め、皆様には面談の設定などで多大なご協力をいただきました。また、拠点校の学習では、コミュニケーションタイムの指導内容が例年と変更になったり、午後の活動は別室で指導することになったりすることで、お子さんによっては不安を感じさせてしまい、保護者の皆様にもご心配をおかけしました。重ねてお詫びいたしますとともに、一連のご協力に心より感謝申し上げます。

なお、ペアレントプログラムについては、10月下旬から始めますが(金曜日午後)、今年度は前期に実施できなかったため、既に受講をお待ちになっている方を優先させていただく予定です。詳しくは、お子さんの個別指導担当教員までお問い合わせください。



写真「夢の扉プロジェクト」(タイムシェア終了を記念して)

<9月のコミュニケーションタイムの主な学習>

「サーキットトレーニング(1)」

特製カードを手に、各運動コーナーを自分で回ります。1学期にサーキットが実施できなかったため楽しみにしている児童も多いようです。今回は、あえて、本紙面ではお知らせしませんので、どのようコーナーがあったか、何がおもしろかったか、ぜひご家庭で尋ねてみてください。

●学習指導要領「自立活動」関連項目

5 身体の動き

(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

6 コミュニケーション

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

以上